

# 教務だより

2015年1月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## やらされるということ

茗溪塾塾長 宇野 雅春

「やらされ勉強は伸びない。」これは誰もが言うことです。受験を目前にするとどんなにやる気のない生徒でも、「自分で考えて解く！」ということに気がつきます。気がつくと、短期間で大きく成績はアップします。「奇跡の合格」というのは、「やらされ勉強」で気持ちが入らなかった生徒が、受験直前に自分の「目的」に気がついて学習に取り組み、短期間で大きく成長することでおこります。受験生全体が、受験直前というのは、そういうチャンスの中にいるといえます。仕事や家事に置き換えるともっとわかりやすいかもしれません。多くの人は「やらされ」なので、常に「大変さ」ばかりが、頭にあります。「何でこんなに大変なことをやらされているのだろう！」そんな大変な自分に対して思わぬ批判や叱責があったりします。これも「やらされ」が原因です。本当に仕事を成功させたいなら、周りとのコミュニケーションは重要になりますから、人間関係のトラブルは、そんなにはないはずなのです。つまり自分で発案し、周りの共感を求めながらしている仕事であれば、自分自身に対する不満は出ても、他人を批判したり、恨んだりほしくないと思うのです。受験も同じです。

親が子供の勉強に口を出すと猛烈な反発がかえってくるのも、「やらされている」からです。自分が自分の目的として受験をとらえ、それに向けて努力を重ねていけば、親は多分何も言わないばかりか、「お願いだから、勉強しすぎないでね。」というかもしれません。「勉強しなさい！」と親にいわせる状況は、多分相当ひどいものなのだと思うのです。

なぜなら、子供に「勉強しなさい」といいたい親は、そんなにはいないからです。

「やらされ勉強」で終始した人は、今度は「やらされ仕事」になります。「やらされ勉強」に「やらされ仕事」で一生を終わるのはちょっと淋しいと思います。

「やりたいことをやれ」といつているのではありません。やりたくないことでも、自分から取り組むということです。いろいろ考えて、自分で追求すること。そのことでいつの間にか、やらされていたことが自分の気持ちにびたっとくるものになります。受験本番ではそういう気持ちですが、本当に大切だと思うのです。

茗溪塾は今年45周年を迎えます。「やる気づくり」を常に考えて、塾を運営してきました。生徒のやる気と講師のやる気が、共に引き出された時に「相乗効果」が生まれます。

そこに大きな成果が生まれます。ですから、受験直前でも最後まであきらめないでほしいと思います。ここから、あれこれ自分の置かれている不利な状況を考えるよりは、あきらめないで、「合格するために何をするか？」を考えましょう。「どうせ自分は能力がないから」とか周りの環境や状況のせいにしてすることはよくあることですが、間違っています。自分がこうしたいと心から思ったなら、思っただけでも、何らかの効果が出るはずで、受験は心の勝負です。心を強く持つこと。自分の目的に向けて自分が努力するという心を持つこと…。それが成功を創るし、だめだったときも次のやるべきことにつながります。先生たちも、そのサポートを全力でします。どうしたらよいかをいっしょに考えていきましょう。「やらされてきた」勉強も、最後の心の変化で、大きな成長につながるはずで、人は変われます。受験はそのチャンスだと思います。